

顔を上げたくなる 大樹町移住BOOK

顔を上げたくなるまち



北海道 **大樹町**
HOKKAIDO TAIKI

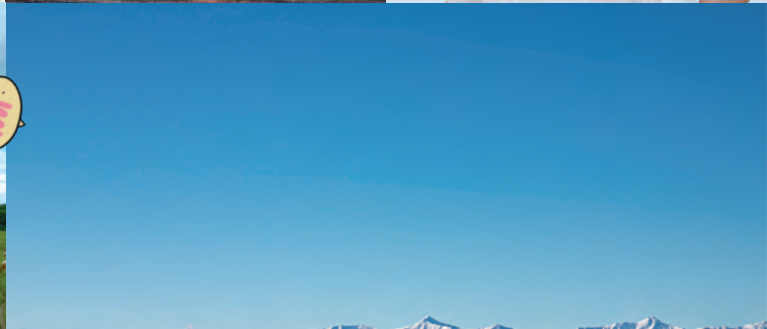


2023



CONTENTS

私たちの大樹ライフ	04
顔を上げたくなる移住者の話	06
ディープな大樹	08
すごい移住者さん	10
たきびばなし	12
写真で見る大樹の風景	14
編集後記	15



顔を上げたくなるまち



北海道 大樹町

HOKKAIDO TAIKI



宇宙も育てる、土壌がある。

ロケットが飛ぶ、宇宙のまち。

その土台にある豊かな土壌のことを、
すこしだけ自慢させてください。

海があって、山があって、

新しいものをつくり、生み出す人がいて。

大きなものも、小さなものもあるけれど、

ひとりひとりが大切だと思うことを育て。

そして、だれかの大切なものを応援して。

そんな前向きな風土が、ここにはあります。

日高山脈と太平洋のめぐみを受けながら、

青々とした草木が広がる、健やかな大地。

今日もなにかが空の向こうを目指して、

すくすくと育っている、大樹町です。

私たちの大樹ライフ

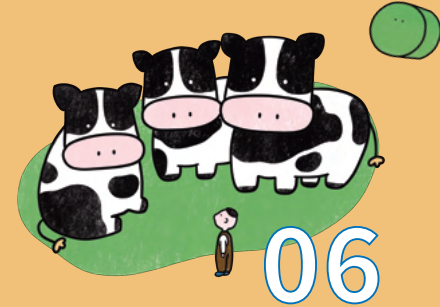
宇宙のまちだけど、宇宙だけじゃない大樹町。
そんな町に移住したら、どんな生活が待っているのかお届けします！



05

人よりも牛が多い

大樹町の主要産業は酪農です。町内では、人口の約3.5倍の乳用牛が飼育されています。町内のあちこちで牛舎や牧草、そして牛の姿を見ることができます。



06

意外と不便じゃない暮らし

大樹町には高級ブランドショップはないし、タピオカ屋さんもないけれど、生活の必需品は町内で揃えることができます。すごく便利ではないけれど、意外と不便じゃない暮らしです。



07

こんなに美味しいのに、こんなに安いの!?

町内の漁港で水揚げされた新鮮な魚を、町内で購入できます。トキシラズやサクラマス、シシャモにツブ...こんなに美味しいのに、こんなに安いの!?!と驚くほど。

車がないと生きていけない人、多発

「都会に住んでいたときは、このくらい歩いていただけどな...」なんて思うほど、車移動に慣れてしまいます。車が必要とは言いませんが、車なしでは生きていけない人が多いです。



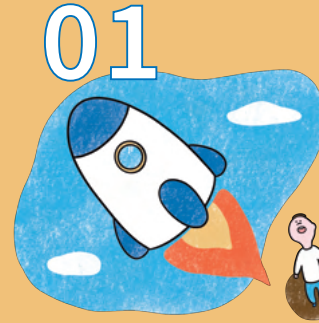
09



08

雪かきは年に3~4回！めっちゃ寒いけど美しい冬

最低気温がマイナス20度を越えることがあるほど、厳しく寒い冬。しかし、降雪日は少なく、雪かきが必要な日は年に3~4回ほど。冬の北海道のピグナーにはおすすめです！



01

家からロケットを体感できる

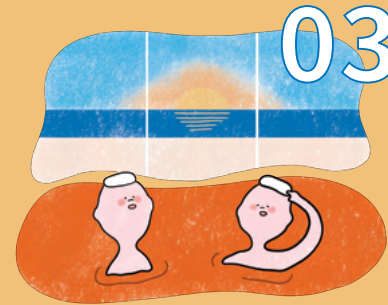
ロケットの打ち上げを気軽に見に行くこともできますが、実は、家にもロケット打ち上げの音が聞こえるのです！家からロケットを体感できるのは、大樹町だけかも？

夏は朝がうんと早く、冬はあっという間に夜が来る

2023年の夏至の日出時刻はなんと3時50分！日没時刻は19時8分と、とても日が長いのです。一方で、冬至の日出時刻は6時54分、日没時刻は15時58分。夜がとてつもなく長くなります。



02



03

温泉が身近な生活

大樹町市街地から車で約30分のところに、国内では珍しいヨード泉「晩成温泉」が。「今日は仕事を頑張った」そんな日は、太平洋を望みながら温泉に浸かるのが一番！

小・中・高が連携している安心感

大樹町には、小学校・中学校・高等学校が1校ずつあります。一貫して町のことを学べる「大樹学」はもちろんのこと、教員同士が連携しあい、子どもが育つ環境を整えています。

04



顔を上げたくなる移住者の話



干場康行さん

ほしはやすゆき

SPACECOTAN株式会社

取締役兼技術担当執行役員



「大樹町に関わるなら、今がいい」と話すのは、干場さん。インターステラテクノロジズ株式会社（以下、I-ST）に転職することをきっかけに大樹町に移住したのは3年前。その後、SPACECOTAN株式会社設立時に取締役に就任し、I-STの仕事と「どちらも100%で」取り組んでいる干場さんに、大樹町の魅力をお伺いしました！

「干場さんが現在取り組んでいることを教えてください」

I-STでは、ロケットの試験や製造を行う施設を作る地上設備チームでものづくりをしています。SPACECOTANでは、北海道スペースポート（以下、HOSPO）の設計も担当しつつ、技術領域の立場から建設費用や枠組みを考えることが多いです。

そもそもSPACECOTANの使命は、HOSPOを軸とした「宇宙版シリコンバレー」を実現す

ることなんです。

それが実現されると、HOSPOを利用したい人が、大樹町に集まって来ます。I-ST以外のロケット事業会社が国内外からやってきたり、ロケットを構成する部品を作る会社、あとはロケットに載せる人工衛星の会社などが増えるでしょうね。更には、航空宇宙系の大学が大樹町でたくさん実験してくれるのをきっかけに、大学が町にできるかもしれないですね。住居や飲食店や宿泊施設なども作られ、若い学生や様々な国籍の人が町を歩いているのが日常的になるでしょう。飲食店では、宇宙業界の人たちと、農家や漁師の異業種交流がされていると思います。きっと、地方創生の成功例としても、日本有数のものになるはずですよ。

「干場さんが考える大樹町の魅力を教えてください」

「宇宙」という、新しく非常にチャレンジングな取組みを、40年前

から継続してやってきていることです。町長が変わってもなお宇宙への意思が継続してきたのは、まさに「宇宙」という価値を理解し信じて実行してきたということ。滑走路をつくり、JAXAを誘致し協定を結び、I-STと共に打上げを成功させ、ビジネス化に向けてスペースポートを作りはじめた。これは、他の自治体には真似できない、歴史と説得力があるということですよ。

は、「いま大樹町において、試行錯誤し、手を動かしている自分だからこそ、過去の歴史や思いを継承できるんだ」と考え直したことがありますが、40年間は重みでもあるし、助けでもあるんですよ。

「これから大樹町でどんなふうにしていききたいですか？」

まずはHOSPOのLC-1射場を完成させて、I-STのロケット「ZERO」を飛ばします。

その後に、「宇宙版シリコンバレー」を達成させるための活動をしていきます。やっぱり10年後には「宇宙版シリコンバレー」になっていたいですよね。I-STだけでなく、国内外問わず様々な会社がロケットを打ち上げに来ている状況を作りたい。

更にその先は、「大樹町は宇宙を使ったこんなふう」に解決出来ました」といえる地方創生事例になるようなまちづくりをしていきたいですね。

僕が大樹町のことをよく知らなかった時は、北海道ではなく鹿児島にあると思っていたし、I-STが来たことをきっかけに宇宙のまちづくりと言いつつ出たとおもうていたんです。それは全然違っていました。SPACECOTANの仕事が行き詰まり「何のためにやっているんだろう?」とつらくなったことがあります。そんなとき、大樹町の宇宙への取り組みの軌跡を思い返し、40年前から続いて関わって応援してきた多くの人に思いを馳せました。さらに続けさせ発展させるために





ミルクローリー車

大樹町には、約70戸の酪農家と約2万頭の乳用牛がいるため、年中無休で生乳を収集しています。ミルクローリー車には10t~14tもの生乳が入るそうです！見かけると、ちょっと幸せな気持ちになります。

街灯

ドライブで他の自治体に行くと必ずチェックするのが街灯です。町ごとに個性が出ていて面白いポイント。大樹町は、町のシンボルである、コスモス・かしわ・ひばりが施されています。ぜひ、見つけてみてくださいね。



STREET LAMP

動物注意の看板

市街地から少し郊外に行くと、動物注意の看板を見つけることができます。ウシ、シカ、リス、更にはクマまで！クマの看板は、実際にヒグマが出没した場所に建てられるとのことなので、見つけたら要注意です。



歴舟川

町の中心部を東西に流れる歴舟川は、行き交う人の心を一瞬で癒やしてしまうほど美しい川。一説によると、アイヌ語のペ・ルプネイに由来し、「水・大きい・もの」という意味を指すそうです。

DUGOUT SHELTER



十勝ホロカヤントー竪穴群

海のすぐ近くにある、一見ただの穴たち。実は、およそ1000年前の縄文文化期に作られた竪穴住居群の跡が残っています。北海道の先史時代は本州と違い、縄文時代・続縄文時代・縄文時代・アイヌ文化時代と続きます。



ami poire



洋菓子店 ami poire

生まれ育った大樹町で洋菓子店を開業するために、Uターンしたパティシエが作る洋菓子が食べられます。バスクチーズケーキは私の大好きな味。季節のフルーツのゼリーも、果汁をたっぷり感じられるゴージャスなスイーツです。



ディープ探し人 宮田悠花さん

2023年6月より地域おこし協力隊として大樹町に移住。趣味は道内ドライブ。町内屈指のTEAM NACSオタクとして頭角を現す。

GO!



山もあり、川もあり、海もあり、沼もあり、畑もあり、宇宙港もある…でも「超有名な観光地がない」だど…!!? いやいや、「超有名な観光地」だけが、見どころではありませんよ。地域おこし協力隊に着任したばかりの宮田さんと、ディープな大樹をご紹介します。

ディープな大樹



彗星に碧

- ☎ 木曜日
- 🕒 11:30~18:00
- 📍 北海道広尾郡大樹町東本通5-1
- ☎ 01558-8-7227
- 📷 suiseiniaio

2019年、「100日間で大樹町にレストランを開業」というテレビの企画がきっかけで、町に移住してきた池田万里慧さん。かつてラーメン屋だった空き家を自分たちの手で改修し、100日でレストランをオープン。多くの町民が来店しました。そんな中、お子さんを連れて親御さんたちが全くつらげない様子を目の当たりにします。子どもたちを遊ばせながら、親御さんたちがご飯を食べたりくつろいだりできるような施設が、町内ないことに気が付き、作りた

100日のできるって 知ってるから、やってみた

すぐさま池田さんは「カフェと一緒に作る」と調理師免許を持つ新野さんに声をかけ、埼玉県から大樹町に呼び寄せました。しかし、カフェのコンセプトすら決まっておらず、あるのは使っていない空き家のみ。新野さんは当時を振り返り、「一緒に作るうと言われたけれど、まさかここまでとは思いませんでした」と笑います。元々借りていた空き家の1階を改修し、自分たちができることは手作り、1年半かけて作り上げ、2022年7月にオープンしました。

1年半かけ、 自分たちの手で作り上げた



ママの心のよりどころ

カフェには、キッズスペースや、授乳とおむつスペースが用意されており、子どもを連れて親御さんたちで賑わいます。特に、月1回行われている「ママカフェ」イベントでは、劇や工作など親子参加型で楽しむことができ、リピート率が非常に高いそう。ママ友として仲良くなり、LINEグループができたりするなど、満足度が高いイベントです。実際は親子客だけでなく、ランチを食べに来る常連さんや仕事をしに来る社会人、勉強をしに来る高校生など、多くの町民に愛されるカフェとなりました。



すごい移住者さん

移住して、カフェをDIYでオープンさせちゃった、すごい移住者さんをご紹介します！



SUGOI IJYU-SHA SAN



池田万里慧さん
オーナー/町民歴5年

SUGOI IJYU-SHA SAN



新野華乃さん
店長/町民歴3年



たきびばなし

U/I-TURN

生まれも育ちもバラバラな私たちが、いま、ここで、生きている。大樹町にUターン・Iターンした30代の3人が、大樹町での生活を語ります。(いつもはもっとくだらない話をしています)。



「実際に大樹に来て(帰ってき)てどうでした？」

服部：ふるさとっていいなあ〜と思いました。慣れ親しんだ町だったから、子どもの頃の記憶が蘇ってきたり、地元の人が私のことを応援してくれたりね。あとは、やっと親孝行できたなと思っただけかな。

おおば：私はアーティストに対する支援がある市町村を探しました。アーティストを大事にしてくれる自治体であれば、多少制度の内容が良くなくても、意見交換して待遇を自分で変えていけ

ると思ったから、そういう自治体を探して、大樹町に行き着きました。

岡山：大樹町は、古いけど広いアトリエを無料で貸し出す制度があるんだよね。

おおば：大樹町は制度が充実しているわけではないし、有名な人が来ているわけではないけれど、やる気があると感じて。

服部：大樹町は空き家を活用するとか工夫すればもったいもないことができそうだよな。

おおば：そう、そのポテンシャルを感じました！それに、町の下見に来たときに、町内の作家を紹介

してもらえたりして、それも心強かった。いろいろ検討して、生活しやすいかな大樹にしました。雪が多すぎないし、市街地で用事が済むから。

服部：たしかにIターンの人には良いかも。雪は少ないし、不便じゃないのに北海道らしい景色も広がっている。

岡山：私は美しい景色を見る生活をしたいけど大樹町に来たけれど、想像より不便じゃなかったと思う。

おおば：確かに、おしゃれな建物



「これからどんなことをしていきたい？」

服部：大樹町の草木で染めた布を使ったバッグを作ったりするので、植物に詳しくなりたいたい。染色に関することだけじゃなくて、飲めるとか食べられるとか、そういう知識を蓄えていきたいな。町には植物に詳しい人がたくさんいるから、弟子入りしよう

服部美咲さん

草作家 / 2021年Uターン
Instagram : @urarkanto

岡山ひろみさん

移住コーディネーター / 2020年Iターン

おおばさくらさん

画家 / 2023年Iターン
Instagram : @5aqla



Uターン

Iターン

Iターン



かな。

おおば：私は「制作を続けられる環境」を作りたいです。関東って、手を伸ばせば何でもあるし簡単に始められる環境はあるけど、競争に疲れたりお金が続かなくて辞めちゃう人も多くて。都内の有名なコンペで賞をとるとか正當なルートじゃなくて、大樹町に来ても画家としてやっていけるんだ、こういう画家としての生き方もあるんだと、新しい生き方ややり方を体現していきたくていんですかね。



岡山：東京で会社員をやっていたときは、会社に求められた成果をいかに出すか、会社内でいかに出世するかばかり考えてたけど、辞めてこっちは考えて私に正解だった。会社のためじゃなくて、自分のために生きて、それが自分の住んでいる町にちょっと貢献するくらいが、私はとても丁度よかったんだと気づいたかも。「都会」とか「当たり前」から離れてみると見つけられないものってあるのかもね。

大樹の風景 写真で見る

In pictures Scenery of Taiki

大樹町が気になったら...

移住に関する疑問を『よくある質問』で解決する

移住相談で頻繁に受ける質問をまとめました。これをチェックして、不安をぜひ解消してくださいね！



LINE 公式アカウント『大樹町移住ホットライン』で聞く

移住前後の小さな疑問から大きな悩みまで、個別に相談を受け付けています！お気軽にお問い合わせください。



大樹町の生活を『宇宙のまち大樹町 note』で知る

移住経験者のライターが、町内の行事や独自の文化、生活の様子などを定期的に発信しています。



移住・定住推進担当

岡山ひろみ 移住コーディネーター



札幌出身で、11年間の東京生活を経て、2020年5月に大樹町へ移住しました！どんな些細なことでもお気軽にお問い合わせください！

おおばさくら 地域おこし協力隊



生まれも育ちも埼玉県。2023年6月から大樹町にきました。画家として風景画を描きながら、移住定住推進員として活動していきます！

顔を上げたくなる大樹町移住 BOOK 2023

2023年11月発行

編集・文 岡山ひろみ

デザイン 小野寺千穂

イラスト うみのらくがき

発行 大樹町役場

〒089-2195 北海道広尾郡大樹町東本通 33

☎01558-6-2111

<https://www.town.taiki.hokkaido.jp/>



大樹町には、まるで「奇跡」のような美しい自然があります。身近だからこそ気づきにくい「奇跡」を写真に残し、多くの人に知ってもらいたいです。

Photo : 牛島寛尊